

# 令和7年度総合計画施策評価シート(令和6年度実施分)

基本姿勢1 安心して魅力ある「定住のしま」  
～分野1 安心して暮らし続けられるまちづくり～

政策5 人と自然にやさしい環境・景観づくり

本文P36～37

基本方針

快適な生活環境を確保するために、地球温暖化対策の推進、資源循環型社会の推進など地球にやさしいまちづくりに取り組むとともに、再生可能資源(紙、バイオマスプラスチック等)の利用促進など、海洋プラスチックごみの削減に向けた施策を進めます。また、特徴的な自然、歴史、文化に彩られた景観を大切に守り、町民と協働して地域の特性を活かした景観形成を推進します。

1-1-5-① 快適な生活環境と地球環境保全に向けた取り組みの推進 担当課 住民生活課・みらい戦略課

## 1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>住○段ボールコンポスト講習会及び指導者の育成、合併処理浄化槽設置に伴う経費負担軽減のための上乗せ補助(平成29年度から令和4年度まで)など、生活環境の保全に努めた。また、町ホームページ、広報紙等を活用して、ごみの減量化の推進、食品ロス削減の啓発、合併処理浄化槽の普及など、関係機関と連携し啓発活動に努めた。</p> <p>住○各火葬場の設備修繕を実施した。また、火葬場再編計画を策定し、奈良尾火葬場の用途廃止を令和5年度に実施した。また、若松火葬場の廃止を令和8年度に計画している。</p> <p>住○違反ごみについては、駐在員や一般廃棄物収集運搬業務委託受任者と協力しながら、広報紙や回覧板により、ごみの分別の啓発を行った。</p> <p>み○長崎県において、海洋エネルギー関連産業の集積を促進することによる県内企業の活性化を目指しており、洋上風力発電の商用化を見据えた取組を産学官連携で推進している。本町においても県及び近隣市町と連携し情報共有等を行っている。</p>
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを 守ろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナリシップで 目標を達成しよう</p> </div> </div> <p><b>【選定理由】</b> 「環境」「経済」を両立させるグリーン成長において期待が高く、関連産業の人材育成・確保も重要であることから、地域資源を保全し、持続可能な形で利用していく。</p>
評価 (問題点とその要因)	<p>住○エコドライブ等の取り組みについては、広報等を中心に周知を行っているが急速には進んでいないため、町内事業所等との連携強化を図る必要がある。</p> <p>住○違反ごみについては、駐在員や一般廃棄物収集運搬業務委託受託者と協力しながら、広報紙や回覧板による啓発等を行った結果、減少傾向となっている。今後も協力しながら推進していく必要がある。</p> <p>住○合併処理浄化槽設置基数が例年20基前後となっており、汲み取り式と比較して維持管理費が高額になる等の理由により設置していないケースが考えられる。</p> <p>住○奈良尾火葬場、若松火葬場の廃止後は、上五島火葬場または新魚目火葬場を使用してもらうこととなるが、奈良尾地区、若松地区の住民にとっては、火葬場までの距離が遠くなることにより、移動時間が長くなるのが懸念される。</p> <p>み○本町は、洋上風力発電のゾーニング計画を策定しており、発電事業者による環境配慮・地域共生型の洋上風力発電事業の導入に向けた相談等を町のワンストップ窓口で対応するなど計画どおり推進している。</p>
今後の取組方針	<p>住○エコドライブ等の取り組みについては、今後も広報活動を中心に推進していくとともに、民間事業所等との連携強化を検討していく。</p> <p>住○広報紙やまちづくり出前講座等を活用しながら地域への啓発を強化し、ごみ減量化・リサイクルを促進する。また、ごみ減量化及び再資源化の必要性について講習会を開催する等の啓発を行う。また、今後は食品ロス削減の啓発を強化し、生ごみ排出量の削減を図っていく。</p> <p>住○単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換への補助金交付や、浄化槽の維持管理に関する補助金交付等、さらなる補助制度の拡大を検討し、積極的な啓発に努め、合併処理浄化槽の設置及び転換等を推進する。</p> <p>住○火葬場再編計画にて定めた奈良尾・若松火葬場の廃止時期等について、令和5年2月に奈良尾地区・若松地区へ回覧板により周知した。今後も地域住民への理解を求め、計画どおりに進める。</p> <p>み○町及び長崎県のゾーニング計画のほか、国の再エネ地域利用法に基づき、洋上風力発電の推進に向けて適切に対応していく。</p>

2-1. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に◇印がついた目標はH30からの減少幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
1 ◆	ごみの排出抑制量	1人1日当たり5%(25g)の減量	kg/人・日	0.85	0.84	0.84	0.83	0.83	0.82	66.6%
					0.88	0.86	0.86	0.85	0.83	
	《成果指標の進捗状況》				担当課	住民生活課				R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									
	基準値(H30)及び令和5年度と比較し、1人1日当たりのごみ排出量は下回る事となったが、令和6年度の目標としているごみの排出量までは達成することができなかった。ごみの分別の徹底等、さらなる啓発活動が必要だと考えられる。									
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み									
	<u>①課題</u>									
	ごみの排出量を抑制するために、大量消費、大量廃棄の生活から4Rを意識し、環境に配慮した環境負荷の少ない生活への転換(環境啓発イベント等への参加、マイバッグ運動、ごみ分別の徹底)が必要。									
	<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載									
行政においても4Rへの取り組みを推進しつつ、環境負荷の少ない取り組みを率先(排出抑制・資源化に係る情報発信や環境啓発イベントの開催、マイバッグ運動の推進、公共施設におけるごみの排出抑制・資源化の推進)することにより、ごみの排出抑制・資源化の推進を行う。										
各年度の評価										
C										
R3										
C										
R4										
C										
R5										
C										
R6										
C										

2-2. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
2 ★	水洗化率	合併処理浄化槽382基の設置の増	%	31.5	34.6	37.8	40.9	44.1	47.2	75.8%
					33.5	34.9	35.8	40.1	43.4	
	《成果指標の進捗状況》				担当課	住民生活課				R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									
	設置基数が令和4年度は18基、令和5年度は16基となっていたが、本年度は20基の設置(補助金申請)があった。設置基数は微増となったが、目標値を達成することはできなかった。平成29年度から令和4年度まで、補助金の上乗せを行っていたが、汲み取り式と比べ、浄化槽設置費用や維持管理費用が高額となること、また、近年の物価高騰等の影響も相まって、浄化槽普及率は伸び悩みの状況と思われる。									
	R6設置基数:20基(5人槽:13基、6~7人槽:4基、8~10人槽:1基、11~50人槽:2基)									
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み									
	<u>①課題</u>									
	平成29年度から令和4年度まで、補助金の一律10万円上乗せを実施していたが、令和5年度より廃止した。町ホームページ及び広報紙により合併処理浄化槽の普及啓発を行っているが、さらなる周知が必要。									
<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										
上乗せ補助は令和4年度まで実施したが、令和7年度から、新たな取り組みとして、汲み取り式や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換に対し、宅内配管や便槽・単独処理浄化槽の撤去費用に対しても、補助金の交付を行うこととした。										
各年度の評価										
C										
R3										
C										
R4										
C										
R5										
C										
R6										
C										

## 1. 基本施策(主要施策) 1次評価

<p>これまでの取組</p>	<p>住○まちづくり出前講座を利用して、施設(リサイクルプラザ・汚泥再生処理センター・ごみ焼却施設)の環境教室を実施した。  住○ごみゼロ、空き缶等回収キャンペーン等の実施による環境美化活動、エコドライブ&amp;スマートムーブデー等の推進やマイバッグ運動による自主的な環境保全活動の促進を行った。  住○関係機関と連携し、不法投棄パトロールを実施するとともに、漂流・漂着ごみ撤去事業により、漂流・漂着物の回収・処理を行った。  住○西海国立公園内における届出等の指導について、環境省九州地方環境事務所五島自然保護官事務所と連携し行っている。  建○年度末に長崎県、本町各部署に翌年度の工事予定箇所及び内容について、資料を提出するよう依頼し、景観計画に適合しているか事前に把握し届け出に漏れが生じないよう必要に応じて指導している。民間についてはその都度協議を行っている。</p>	
<p>SDGsとの関係性</p>	 	<p>【選定理由】  新上五島の美しい自然環境を可能な限り維持することで、住みよい環境をつくる。地域資源を保全し、持続可能に利用していく取組を実施し、より住みやすい環境を目指す。</p>
<p>評価 (問題点とその要因)</p>	<p>住○環境保全意識を高め、実践に結び付く普及啓発活動を展開していくために、「環境月間」だけにとどまらず、自然環境を守り、住みよい環境づくりのための啓発活動を行っていく必要がある。  住○空き缶等回収キャンペーンを実施しており、環境問題に対する町民の意識は高まりつつあるが、その意識醸成のための具体的な取り組みが浸透していない。  住○不法投棄については、毎年巡回パトロール、看板設置等を行っているが、減少の傾向があまり見られない。不法投棄されやすい場所、再発しやすい場所等への未然防止策が必要である。  住○西海国立公園区域が広域であり、伐採等でも注意が必要である。  建○景観計画については、工事着手1か月前に届け出の必要があるが、不知により届け出が遅れる場合もあるので、指導を行う必要がある。</p>	
<p>今後の取組方針</p>	<p>住○今後も引き続き環境教室を実施する等、広報紙や公共施設等での掲示を通じて効果的な啓発を行っていく。  住○年齢層に応じた環境学習メニューを充実し、取り組みの浸透と拡大を図るため引き続き周知を行い、詳細な情報を提供していく。  住○不法投棄パトロールを強化し、地域と連携した発生抑制の事業を行う。  住○環境省九州地方環境事務所五島自然保護官事務所と指導等を行う。  建○工事担当者等と連絡を取り合い、景観計画に沿って事業を進めて行く。</p>	

## 2. 重要業績評価指標(KPI)評価

設定なし

## 2次評価委員会からの評価・意見等

脱炭素社会の実現に向けて、様々な取り組みを通じて環境負荷の軽減に努める必要がある。合併処理浄化槽の普及を促進する為の補助制度の充実、景観計画に基づく景観、西海国立公園に代表される自然景観の維持など行政の取組だけでは進捗しない施策もあり住民・国・県・ボランティア団体などと協働で取り組んでいく必要がある。